

グループワーク演習、機器を使用する演習、実験実習での注意点

新型コロナウイルスは主に飛沫感染、接触感染で広がっていきます。また、「換気が悪い」「人が密に集まって過ごすような空間」「不特定多数の人が接触する恐れが高い場所」で集団感染が発生しています。講義や実習・演習で感染が拡大しないように、以下の点に注意しましょう。

【共通の注意点】

- ① 必ず検温し、37.5℃以上の発熱や平熱よりも 1℃以上高い熱の場合、咳やくしゃみ、のどの痛み、倦怠感等の風邪症状のある者は欠席する（教務課教務係に連絡する）。
- ② 講義室やグループワークの演習室、機器を使用する演習室、実験室を使用する前後の 10 分間、すべての窓と扉を開放して換気を行う。
- ③ 講義、実習・演習終了後に体調に変化がみられた場合は担当教員に必ず連絡をする。

【グループワークでの注意事項】

- ① 演習室内では、お互いに間隔をあけて（椅子 1～2 個分）着席する。
- ② 可能な限りマスクを着用する。マスクが入手できない場合は、相手に飛沫をかけない距離（約 2m）を保つか、正面ではなく斜めの位置に着席する、または、会話するときのみハンカチ等で口を覆う。
- ③ 終了後、他の教室に移動する際に手指衛生（石けんによる手洗い又は手指消毒）をするとよい。

【機器を使用する演習・実習での注意事項】

- ① 機器に触れる前に、石けんによる手洗いかアルコールの入った手指消毒薬で手指衛生をする。
操作中に口や顔の周りに手が触れないように注意する。
- ② 機器に触れた後は、石けんによる手洗いかアルコールの入った手指消毒薬で手指衛生をする。
- ③ 演習・実習終了後は改めて手指衛生をする。

【グループで実験する時の注意事項】

- ① グループで共同して実験をするとき、特に 1m以内に接近する場合は、必ずマスクを着用する。
- ② 実験前に実験台などを消毒し、その後手指衛生（手洗い又は手指消毒）をする。実験後には使用した実験器具を指示に従って後片付けし、その後必ず手指衛生（手洗い又は手指消毒）をする。

身体的な接触がある実習・演習の基本的な注意点

新型コロナウイルスは、飛沫感染、接触感染で広がっていきます。また、「換気が悪い」「人が密に集まって過ごすような空間」「不特定多数の人が接触する恐れが高い場所」で集団感染が多く発生しています。

身体的な接触がある実習・演習で感染が拡大しないように、以下の点に注意しましょう。

① 実習や演習（学生が自主的に行うものも含む）の前に、必ず検温し、37.5℃以上の発熱や平熱よりも1℃以上高い熱の場合、咳やくしゃみ、のどの痛み、倦怠感等の風邪症状のある場合は欠席する（教務課教務係に連絡する）。

② 実習室や演習室使用前後で10分間すべての窓と扉を開放して換気を行う。

③ 可能な限りマスクを着用する。マスクが入手できない場合は、マスクに代わるものタオルや厚手の大判ハンカチなどで飛沫が飛ばない工夫をする。それも入手できない場合は見学など担当教員の指示に従う。

④ 相手の身体に触れる前に、石けんによる手洗いかアルコールの入った手指消毒薬で手指衛生をする。

⑤ お互いに一通りの手技が終了したら、石けんによる手洗いかアルコールの入った手指消毒薬で手指衛生をする。

* 実習・演習の途中でも鼻や口を直接触った場合はその都度手指衛生（手洗い又は手指消毒）を実施

⑥ 実習・演習終了後は改めて手指衛生をする。

* その他、担当教員の指示に従ってください。

実習・演習前2週間から健康観察（検温、風邪症状の確認）をする。

実習・演習終了後に体調に変化がみられた場合は担当教員に必ず連絡をする。

欠席などの連絡先：教務課教務係 029-840-2107（緊急時を除き朝8時半以降）